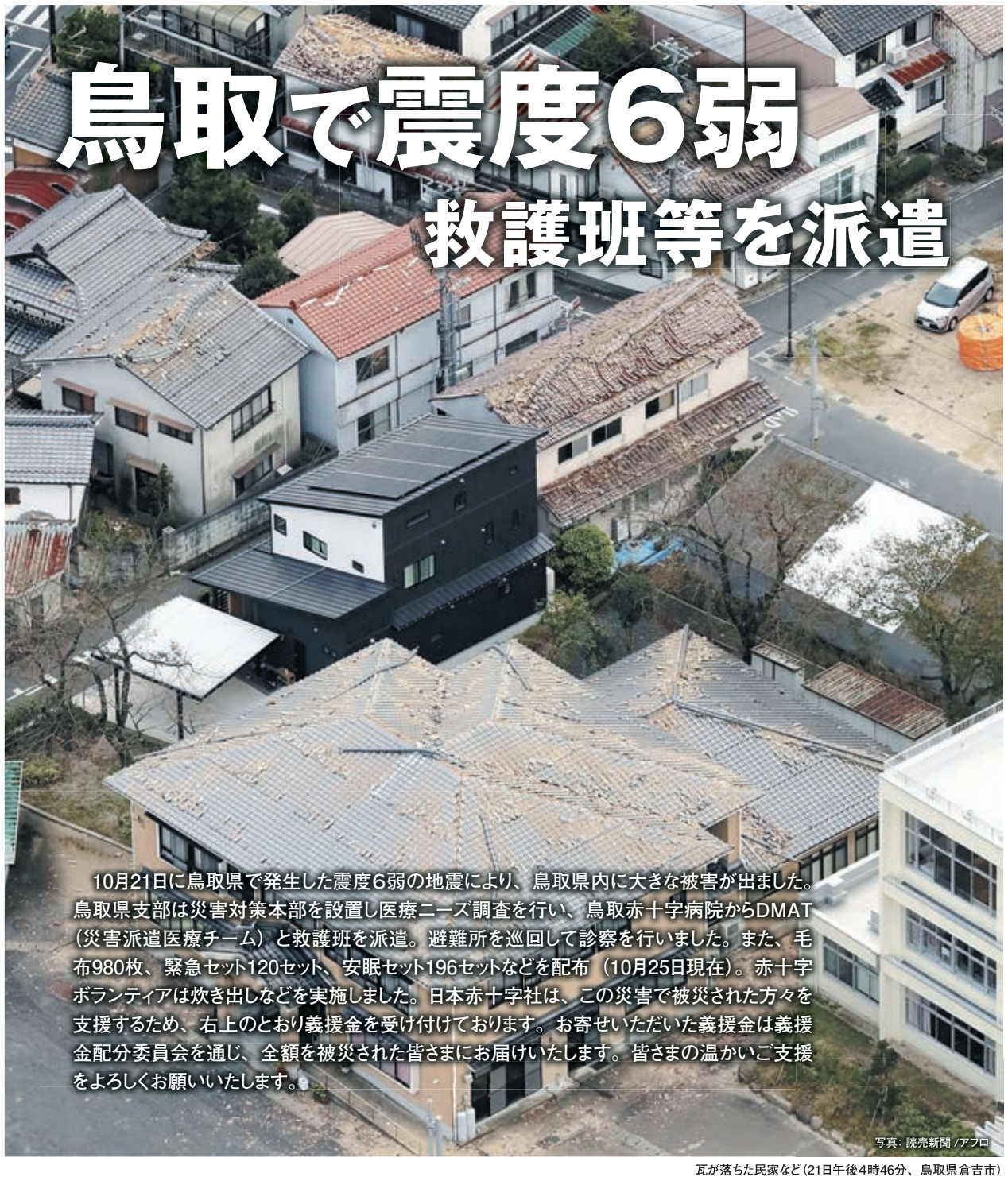
赤十字NEWS

November 2016 Vol.918 11
http://www.jrc.or.jp

人間を救うのは、人間だ。 日本赤十字社

赤十字新聞 編集・発行／日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



鳥取で震度6弱 救護班等を派遣

10月21日に鳥取県で発生した震度6弱の地震により、鳥取県内に大きな被害が出ました。鳥取県支部は災害対策本部を設置し医療ニーズ調査を行い、鳥取赤十字病院からDMAT（災害派遣医療チーム）と救護班を派遣。避難所を巡回して診察を行いました。また、毛布980枚、緊急セット120セット、安眠セット196セットなどを配布（10月25日現在）。赤十字ボランティアは炊き出しなどを実施しました。日本赤十字社は、この災害で被災された方々を支援するため、右上のとおり義援金を受け付けております。お寄せいただいた義援金は義援金配分委員会を通じ、全額を被災された皆さまにお届けいたします。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

写真：読売新聞／アフロ

瓦が落ちた民家など（21日午後4時46分、鳥取県倉吉市）

義援金募集のお知らせ

義援金名称 平成28年鳥取県中部地震災害義援金

受付期間 平成28年11月25日（金）まで

郵便振替（ゆうちょ銀行・郵便局）

口座記号番号 00180－8－514217
口座加入者名 日赤平成28年鳥取県中部地震災害義援金

※窓口でのお振込の場合は、振込手数料は免除されます
※窓口でお渡しする半券（受領証）は、寄付金控除申請の際に必要となります
※銀行振り込み、被災県の鳥取県支部の口座でも受け付けております
※お寄せいただいた義援金は、手数料などをいただくことなく、全額を被災された方々へお届けします

詳しくは日本赤十字社のホームページ（http://www.jrc.or.jp）をご覧ください

CONTENTS

TOPICS 2
地域包括ケア病棟を地域医療構築の起爆剤に
赤十字原子力災害情報センター発足から3年
健康豆知識 免疫力を上げる食生活

TOPICS 3
海外たすけあいユースボランティア シリア難民テーマに大学生が寸劇
名誉総裁皇后陛下 日本手拭い600本を御下賜
平成28年熊本地震災害義援金情報

SPECIAL 4 5
ペルー日本大使公邸人質事件から20年 「中立」こそが、赤十字の力の源泉

AREA NEWS 6 7
北海道・栃木・神奈川・新潟 静岡・大阪・兵庫・広島 山口・徳島・大分
常任理事会報告
赤十字支援マーク入り即席めん
プレゼント

WORLD 8
フィリピン中部台風復興支援事業 9校96教室の修復・再建が完了
ハイチハリケーン被害救援金受付中
連載 人道支援の現場から④ ハイチコレラ衛生促進事業 小笠原 佑子

今月の出会い

宝塚歌劇団星組
大輝（おおき） 真琴（まこと）さん（左）
愛水（あいみ） せれ奈（な）さん（右）

役柄に込めた赤十字の重み

「日常では味わえないときめきの3時間を過ごせます」「つらいことや悲しいことのすべてを吹き飛ばす舞台です！」―宝塚歌劇の魅力をそう語る大輝真琴さんと愛水せれ奈さん。子どもの頃から宝塚に親しみ、憧れの舞台に立つ今も「舞台に立つことが幸せ。宝塚の世界を作ることに誇りを感じています」と声を揃えます。

そんな2人が現在出演している作品が星組公演グランステージ「桜華に舞え―SAMURAI The FINAL―」。西郷隆盛の腹心として知られる桐野利秋の生きざまを描いています。男役の大輝さんが演じるのは、博愛社（日本赤十字社の前身）創始者の一人、大給恒。「実在の人物を演じるのは責任を伴います。日赤から資料を提供いただき人物像を深めました。周囲が戦に熱くなる中で、人を救うことを考えていた。先を見る力がある人物だと思います」。一方、博愛社の看護隊部隊長を演じている娘役の愛水さんは「架空の役柄ですが、その後の戦争での救護看護婦の方が書いた手記などを読み、イメージを作り上げました」。

作品の舞台は幕末～西南戦争。そして戦禍の中で産声を上げた博愛社。2人は「敵味方の区別なく命を救う行為には危険が伴うし、勇気も必要。現代もその勇気を持ち、危険の中で赤十字が活動していることに重みを感じました」と役柄に込めた思いを語っています。

PROFILE

大輝真琴、兵庫県出身。 愛水せれ奈、東京都出身。
ともに2005年3月「エンター・ザ・レビュー」で初舞台。「桜華に舞え」はロマンチック・レビュー「ロマンス!!」と二本立てで、11月20日まで東京宝塚劇場で上演。公演詳細はホームページ（http://kageki.hankyu.co.jp/）で。

超高齢化社会に向けて

地域包括ケア病棟を地域医療構築の起爆剤に

多様な疾患を複合してもつ高齢患者が在宅や介護施設での療養にスムーズに移行できるように、リハビリなどの医療提供を担う地域包括ケア病棟（病床）。地域包括ケアシステムの構築・推進に向け、この病棟の担当者らを集めた「第一回赤十字医療施設地域包括ケア病棟研修会」が9月20日、日本赤十字社本社（東京都港区）で開かれ、医師、看護師、理学療法士ら113人が参加。各病院での導入状況が紹介され、多職種での情報共有を図りました。

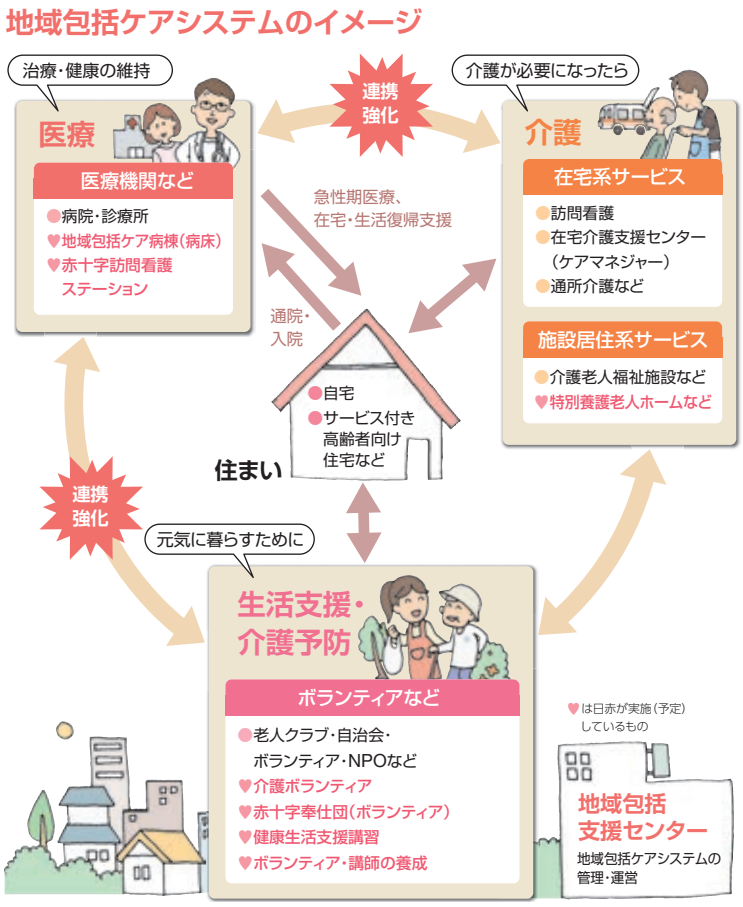
要介護度の高い高齢者を地域全体で支えていく「地域包括ケアシステム」は、高齢化が加速する中、国の主導により環境整備が進められているものです。地域包括ケア病棟は、地域包括ケアシステムの中で病院と在宅とをつなぐ中心的存在。今年4月までに全国24の赤十字病院に設置されました。

研修会では、地域包括ケア病棟協会の仲井培雄会長が講演し、「地域に密着した医療に最も適しているのが地域包括ケア病棟。さまざまな疾病を抱えていたり、要介護状態にある後期高齢患者に、幅広い医療が提供できる」と指摘。地域包括ケア病棟が持つ多様な可能性を強調しました。

課題は地域との連携強化

各病院からは「入院前に在宅時の生活環境を把握することで、安全・安心な入院環境を整えている」「患者と関わる時間が増え、信頼関係が深まった」「退院に向け、多職種でのチームで考え対応できるようになった」など、従来よりもきめ細かな患者対応が可能になったといった報告が。また課題として「地域の介護センターや在宅診療医とのパイプを太くする取り組みが求められている」などが共通して指摘されました。

医療事業推進本部の田渕典之参事監は「各病院は試行錯誤しながらも、地域ニーズに応じた取り組みを工夫しています。地域包括ケア病棟は地域医療構築の起爆剤になる存在。今後も地域密着で運営されている中小規模クラスの赤十字病院に広がっていくと考えています」と話しています。



発足から3年

赤十字原子力災害情報センター

原子力災害に関する情報を収集・発信

原子力災害が発生した際の安全な救護活動に向けて、被ばく線量の基準や対応策などを考える「赤十字原子力災害情報センター」の発足から3年を迎えました。これまで「救護活動ガイドライン」を策定し、デジタルアーカイブによる情報発信などを行ってきました。現在、国や自治体との連携強化、海外赤十字社が事前の対策をつくる際への協力などの具体化を進めています。

福島第一原発事故の際、県外から派遣されていた日赤救護班は一時撤退を余儀なくされました。各班員の放射線知識が不十分であり、放射線下での行動基準や、放射線防護資機材も未整備だったからです。

赤十字原子力災害情報センターは、この反省を踏まえて平成25年10月に日赤本社内につくられました。昨年3月には、職員などの安全確保に向けた「救護活動ガイドライン」を策定。被ばく線量の管理を個人ごとに行い、一般の職員は活動期間中の累積が1ミリシーベルトを超えないようにすることなどを確認しました。

アーカイブには、日赤や連盟の原子力災害対応や、原子力基礎研修会の教材、日赤も関わったチェルノブイリ原発事故後の住民の健康管理に関する情報、などが登録されています

http://ndrc.jrc.or.jp

基礎研修会で放射線測定器の実習を行う参加者。各赤十字病院には救護班用に活動中の被ばく線量を測定するための放射線測定器や、万が一に備えて放射線防護服などを配備

ガイドラインは、対策本部への緊急被ばく医療アドバイザーの設置や、救護班を対象にした放射線に関する事前教育など安全確保策も打ち出しています。すでに全国12の赤十字病院において、医師と放射線技師各1人ずつの緊急被ばく医療アドバイザーを任命。救護班員を対象にした研修会も昨年度までに計4回開催され、約300人が研修を終えました。

また、原子力災害に関する情報収集・発信のためのデジタルアーカイブでは、日赤の福島での経験やその後の対応に関する資料（文章・写真・動画）を日本語や英語で公開。他団体や海外の赤十字社などでの活用も期待されています。

行政機関との連携も課題

国内原発の再稼働が進み、海外での原子力発電所設置の急増が見込まれる中、国内外との関係機関との連携も課題です。昨年末には国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）による「原子力・放射線災害における事前対策および応急対応ガイドライン」も策定されました。

日赤は原発を経験した社として、海外の赤十字社へ原子力災害への備えを訴える一方、アドバイザーの派遣や防護資機材提供などの協力体制を整えています。また、国内でも原子力災害時に被災者を救護するため、職員の安全確保、体制強化、人材育成、情報発信を継続していきます。さらに、住民を対象にした放射線に関する知識の普及も始まっており、日赤の対応に関する周知も今後のテーマとなっています。

知ってて良かった！ 日赤のドクター&ナースが教える 健康豆知識

㉙ 免疫力アップのカギは腸内環境

静岡赤十字病院 栄養課 栄養課長　梅木幹子

免疫力とは、人間の体に備わっている自己防衛システムのことです。細菌やウイルスなど病気の原因となる異物を識別し、排除する働きがあります。栄養の偏りや睡眠不足などで免疫力が低下すると、風邪やインフルエンザといった感染症やノロウィルスなどの食中毒にかかりやすくなります。

免疫力に不可欠な栄養素の一つがタンパク質です。血液や筋肉、骨など体の基をつくる栄養素なので、不足しないよう、肉や魚、大豆、タマゴ、乳製品などの質のよいタンパク質を摂取することが、免疫力の維持・向上には欠かせません。

次に忘れてはならないのが「腸内コントロール」です。実は免疫力の基になる免疫細胞の6～7割が腸の中に存在しています。そしてこの腸内の状態に大きく影響するのが腸内細菌です。善玉菌を増やして腸内環境を整え、免疫細胞を活性化させることが体全体の免疫力アップにつながります。

まずお勧めしたいのは、善玉菌の代表格である乳酸菌やビフィズス菌を摂取できるヨーグルトや乳酸菌飲料です。ただし、乳酸菌は寿命が短いので毎日摂ることをお勧めします。また、空腹時は胃酸で菌が死んでしまうので、食後に食べるのがベスト。乳製品が苦手な方には、キムチや納豆などの発酵食品も効果的です。いずれも善玉菌で、腸内環境を整えてくれます。

野菜や果物、海草など食物繊維を含む食材も大切です。というのも、食物繊維はビフィズス菌のエサになるので、お腹の中でビフィズス菌を増やしてくれるからです。オリゴ糖も同じようにビフィズス菌を増やす働きがあります。

明るく楽しく食べることも忘れないでください。美味しい料理を笑顔で食べることが、ストレス解消になり、免疫力をアップさせてくれます。できれば一人よりも家族や友達と。テーブルの雰囲気もランチョンマット一枚で変わります。季節の食材や果物で食卓を飾るのもお勧めです。

▲ヨーグルトの適量は1日100グラムくらい。砂糖の入っていないプレーンヨーグルトに食物繊維の摂れる果物やシリアル、オリゴ糖（小さじ1杯程度）を加えるとバランスも最適です

静岡赤十字病院
〒420-0853
静岡市葵区追手町 8-2
TEL 054-254-4311（代表）

海外たすけあいユースボランティア

シリア難民テーマに大学生が寸劇「演じて身にしみた難民の苦労」

「ママ、僕もう歩くの疲れちゃったよ」「船に乗って海を渡ればお父さんにも会えるはずだから頑張って」――戦禍を逃れヨーロッパを目指すシリア難民を描いた寸劇に、海外たすけあいユースボランティアのメンバーが挑戦。10月1～2日に東京・お台場で開かれたグローバルフェスタ2016で披露しました。

海外たすけあいユースボランティアは、大学生のメンバーを中心に組織。12月に行われる海外たすけあいキャンペーンに向けて、同世代の若者への広報活動などを展開しています。

寸劇は、この広報活動の一環。着の身着のままギリシャにたどり着き、夫のいるドイツ行きを希望する難民母子に対して、「国境は閉鎖中」「難民登録は2年かかるというううわさ」など厳しい現実が告げられるストーリーです。母親役を演じた鈴木滉介さん（明治学院大学2年生）は「ギリシャへ渡るボートの乗船前に〝荷物は積めない。置いていけ〟と迫られるなど、難民役を演じたことで彼らの苦労の一端を感じる事ができました」と言います。

支援への参加・協力のきっかけづくりを

寸劇と合わせて行われた活動報告では、シリア赤新月社による負傷者救護や支援物資の配布など人道支援活動が攻撃の対象となっている状況や、シリア難民への支援に対する寄付の集まりが鈍いことなども訴えかけられました。

来場者からは「医療スタッフが攻撃の対象にされていることに衝撃を受けた」「難民支援への寄付が災害支援と比べて少ないことにビックリしました」などの声が寄せられました。

海外たすけあいユースボランティアの蓼原彩香さん（明治学院大学3年生）は「無関心そうに見える学生も、心のどこかでは〝誰かのために役立ちたい〟と思っています。そんなみんながボランティアや寄付に参加・協力するきっかけをユースの仲間とつくっていきたい」と意気込みを語っています。

名誉総裁皇后陛下

日本手拭い600本を御下賜

日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下から10月6日、紙ふうせんがデザインされた日本手拭い600本が日本赤十字社に下賜されました。

御下賜は、10月20日の皇后陛下誕生日を記念して、毎年行われているもの。日本赤十字社はお誕生日に合わせて、下賜された手拭いを病院や介護老人保健施設などの入所者に配布しています。

今年は、伊豆赤十字介護老人保健施設・グリーンズ修善寺（静岡県）をはじめ、多可赤十字老人保健施設（兵庫県）、岡山赤十字老人保健施設・玉野マリンホーム（岡山県）、小野田赤十字老人保健施設・あんじゅ（山口県）、日本赤十字社総合福祉センター（東京都）、広島赤十字・原爆病院（広島県）の6施設に配布しました。

広島赤十字・原爆病院に入院している砂古（さこ）ハナミさん（98歳）は、「畏れ多いことですが、ありがたく頂戴いたします。一生の宝物にします」と皇后陛下に感謝と喜びを表していました。

平成28年熊本地震災害

2017年3月31日（金）まで
義援金の受付を行っております。

引き続き、皆さまのご支援を宜しくお願い申し上げます。

義援金の協力方法

【郵便振替（ゆうちょ銀行・郵便局）】
口座記号番号　00130-4-265072
口座加入者名
日赤平成28年熊本地震災害義援金

※ゆうちょ銀行・郵便局の窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料は免除されます

※ゆうちょ銀行の振込用紙の半券は、受領証の代わりとなり、「免税証明書」として寄附金控除申請の際にご利用いただけます

※その他、銀行振込および各都道府県支部でも受け付けています。詳しくは下記ホームページをご覧ください

義援金の受付・送金状況

【受付】　269億6,935万3,282円
（2016年10月21日集計確認分）

【送金】　265億8,543万1,066円
（2016年10月25日現在）

※日本赤十字社にお寄せいただいた「義援金」は、手数料などはいただくことなく全額が被災県に設置された義援金配分委員会を通じて、被災者に届けられております

※関連事務費については、活動資金（日赤を支援くださる方々からの会費や寄付金）により対応しております

熊本赤十字病院／熊本健康管理センター

半年前の経験に学ぶ 防災イベント開催

防災意識の風化を防ぎ、復興に向けて笑顔を届けることを目的とした防災イベントが9月25日、熊本赤十字病院で開かれました。日本赤十字社が保有する救援資機材の展示やドクターヘリの見学、避難生活で問題となる生活不活発病の予防法や災害時に役立つ非常食レシピの紹介、風呂敷リュック作り体験などが行われ、大勢の参加者で賑わいました。

参加者からは「子どもも興味を持ってくれ、大変参考になった」「知っていると災害時も慌てずに済みそう」といったたくさんの感想が寄せられました。

また、日本赤十字社熊本健康管理センターでは、地震以降、ずっと頑張り続けている熊本の方々を対象に「くまもと応援ドック」を開始。通常よりも低価格で人間ドックを実施しています。

日本赤十字社ホームページ（http://www.jrc.or.jp）

広告

社会福祉法人黎明会（公社）全国有料老人ホーム協会正会員
介護付有料老人ホーム
熱海 ゆとりあの郷
雄大な眺望と温暖な風土のもと、心豊かに暮らす…
「熱海ゆとりあの郷」には、ほんものの豊かさと、心の安らぎがあります

特別見学会の日程
11月16日(水)、25日(金)、29日(火)
12月　8日(木)、14日(水)

熱海ゆとりあの郷に住まう魅力
歴史ある社会福祉法人が経営母体
温暖な気候 必見の眺望
24時間365日 医師・看護師が常駐
自慢の温泉
暮らしの多様なサービス
安心の「終のすみか」

熱海ゆとりあの郷「東京入居相談室」
〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル東館2階
検索 熱海 ゆとりあ ホームページ http://www.yutoria.net
見学の申込みや問い合わせは、下記フリーダイヤルまで。
フリーダイヤル 0120-058-211 受付時間／9時～17時 月曜～金曜
●所在地／〒413-0038 静岡県熱海市西熱海町1丁目24番1号 TEL.0557-81-2322／FAX.0557-82-5260
●交通／新幹線・東海道本線熱海駅下車 熱海駅から専用マイクロバス運行（約15分）●類型／介護付有料老人ホーム（一般型特定施設入居者生活介護）●居住の権利形態／利用権方式●利用料の支払い方式／一時金方式●入居時の要件／入居時自立●介護保険／静岡県指定介護保険特定施設（一般型特定施設）・介護予防特定施設●介護居室区分／全室個室●一般型特定施設である有料老人ホームの介護にかかわる職員体制／2.5：1　以上

ペルー日本大使公邸人質事件から20年
「中立」こそが、赤十字の力の源泉だった

平成8（1996）年12月17日、天皇誕生日の祝賀パーティーが行われていた在ペルー日本大使公邸がトゥパク・アマル革命運動（MRTA）の武装集団に襲われました。これが日本人24人を含む72人が、4カ月以上にわたって拘束されることになった「ペルー日本大使公邸人質事件」の始まりです。

偶然にも、パーティーに出席していた赤十字国際委員会（ICRC）ペルー代表部のミシェル・ミニグ首席代表（当時）が、武装グループの襲撃直後に仲介にあたったことで、ICRCは初期段階で大勢の人質解放を実現。残された人質の人道支援に関わることになります。日本赤十字社も医療班を現地に派遣。ICRCの一員として、人質の健康維持や家族との連絡仲介などの役割を果たしました。

しかし赤十字の活動は、事件当事者であるペルー政府とMRTAの双方から「相手寄り」と疑われるなど困難の連続でした。人道支援に不可欠な「中立」への理解と信頼を得るため、ICRCと日赤のスタッフはどう動いたのか？　事件発生から20年を機に振り返ります。

1

そこは「戦場」だった

「ところで、広島に原爆が落とされたのはいつだった？」。公邸に立てこもるMRTAのリーダー、セルパからの突然の質問に、日赤医療班の総括役を務めた本社広報室副室長の中田晃氏（当時・本社国際部開発協力課長）は面食らったといいます。

「初めて私が公邸に入った時でした。本当に日赤の人間かどうかを試したのでしょう。もし焦って間違えていたら、日系のペルー軍特殊部隊員に疑われていたかもしれません」

自動小銃を構え、手りゅう弾やサバイバルナイフで武装した覆面姿のMRTAメンバーとペルー治安部隊がにらみ合う公邸周辺は戦場そのもの。互いが銃口を向け合う中で、水・食料などの搬入や人質の健康を維持するための診察といった人道支援が続けられました。

「生きた心地がしない場面もありましたが、『人道』『公平』『中立』などの諸原則と長年の活動に裏打ちされた実績をもつ赤十字標章が付いたゼッケンは、防弾チョッキ以上に頼りになる存在でした」

問われたのは「中立」

ペルー政府とMRTAの間に割って入り、支援活動を行うための〝人道スペース〟を確保することが、この事件で赤十字に課せられた役割。その成否のポイントは「中立」でした。

公邸の訪問だけでなく、ICRCや日本政府対策本部との連絡・調整、マスコミ対応などの役割も担った中田氏は「どちらかを利していると見られてしまえば、赤十字の活動が中止に追い込まれかねません。あらゆる局面で中立であることが厳しく要求されました」と解説します。

ペルー政府とMRTAの直接交渉を第三者的立場から支えた保証人委員会には、ICRCのミニグ氏も加わっていましたが、人道支援以外の政治的な議題の際には退出しました。交渉への関与を疑われれば、「中立」の立場に疑念を持たれかねないからです。

この姿勢は日赤メンバーにも徹底されました。看護師として公邸にも入った野々尻優美子氏（富山赤十字病院）は事件後、「絶えず自分の言動を、人道と中立に照らし合わせる事になった。こういう点で緊張するというのは初めての経験」と記しています。

徹底された情報管理

中立の立場を維持するため、最も注意が払われたのが情報の取り扱いでした。ICRCスタッフが公邸内で得た情報は徹底管理されました。不用意な情報発信でMRTAに政府との協力を疑われることは、人質の命に関わります。

医師として人質の健康管理に当たった鈴木隆雄氏（当時・日赤和歌山医療センター）は「公邸内の情報に関しては、まったく外部に話さなかった。それを守ってこそ初めて公邸に入って診療が行えた」「私は貝になった気持ちであった」と振り返っています。

ペルー政府は、人質の健康が悪化する状況になれば武力突入すると決めていました。つまり、人質の健康状態は事件の局面を左右するファクター。赤十字はこれをとりわけ厳しい情報管理の下に置いたのです。

渦巻く不信の中で

一方、人道支援のために中立を守る赤十字の姿勢が、関係者の誤解を招く事も少なくありませんでした。人質から「赤十字が間に入って解放交渉を促してほしい」との要望が出されるなど、仲介者が中立であることへの不満が。また人質の家族からは健康状態すら教えない姿勢に不信の目が向けられました。

マスコミも例外ではありません。現地紙の中には赤十字の中立性に疑問を呈したり、「赤十字こそ解決を長引かせている原因」という記事が載ったことも。政府、MRTAの双方からも「相手寄り」の批判が吹き出ました。

事件後ミニグ氏は「一部の人は『善と悪の間に中間はない』といいます。当局とテロリズムとの間に『中立』はないという意味です。これでは、『中立』を掲げる赤十字は『悪』と見なされるしかありません」と手記に残しています。

信頼を得る積み重ねとは

日系職員がICRCの一員として、双方が自動小銃の銃口を向け合うような極度に緊迫した状況の中で人道的任務を担ったのは、日赤の歴史の中でこの事件が初めてでした。しかし、この経験を特殊なものとして軽視すべきではないと中田氏は指摘します。

「すべての関係者の疑心暗鬼が渦巻く中でも人道支援を実現するためには、少なくとも信用を失くさないという真摯な姿勢による信頼を積み重ねて、中立を認めさせるしかありません。それは赤十字にしかできない仕事。いまシリア紛争で支援に奔走しているシリア赤新月社のスタッフやボランティアも同じ思いのはず。日赤の私たちが日々の仕事で『さすが赤十字』と言われる揺るぎない信頼を積み重ねることも、人道スペースを広げることにどこかでつながっているのではないでしょうか」

2

3

1 人質のこころのケアのためにご家族の手作りのどら焼き100個を搬入し、人質に喜ばれるが当時は公表されず
2 公邸内に持ち込むものは全てペルー当局とMRTA双方の厳しいチェックを受けた
3 10回の予備的対話を重ねた「保証人委員会」のシプリアニ大司教とミニグ首席代表（右）

メディアから見たペルー事件
特異な光を放つ経験

日本記者クラブ理事長（前毎日新聞社主筆）
伊藤芳明さん

駐在していたワシントンから便を乗り継いで入ったリマは、なお騒然とした雰囲気が漂っていた。発生から約1カ月が経過した1997年1月15日のことである。取材チームのキャップとして公邸直近の住宅を借り上げて住み込み、そこが前線基地となった。日系大統領の国で日本大使公邸が舞台となり、その時点でも日本人を含め100人近くが人質となったままという、「日本」が初めて大規模テロの標的となった事件だった。日本メディアは最大規模の取材体制を組み、毎日新聞だけでカメラマンを含め計36人の記者がリマでの取材に投入されている。

95年まで4年間、ジュネーブ特派員として赤十字国際委員会（ICRC）と関わってきた。日本で赤十字と言えば献血や被災地支援のイメージが一般的だが、ジュネーブでは旧ユーゴスラビア内戦や和平成立後のカンボジアなどで、危険を顧みず「中立」の旗を掲げて紛争当事者間で特異な役割を果たすICRCのイメージが鮮烈だった。特に冷戦終結後の90年代に入り、国連の影響力が低下し、頻発する民族紛争の中で国連が標的となる傾向が顕著になるにつれ、ICRCの役割が相対的に大きくなっていったように思う。

リマ事件の仲介交渉でも、バチカンとともにICRCのミシェル・ミニグ氏がキープレーヤーとなった。旧知のICRC関係者と食事をしながら旧交を温め、取材させていただいたのも懐かしい思い出だ。発生から20年が経過したが、新聞人としての40年以上の時間の中で特異な光を放つ経験である。取材チームのうち既に二人が鬼籍に入り、残ったうちの十数人が集まり、12月の節目にささやかな会を催す。

事件当初、ICRCの記者会見に殺到する各国の取材陣

ICRCと日本赤十字社

スイスに本部を置く赤十字国際委員会（ICRC）は世界で最初に組織された赤十字組織。戦争や武力紛争などにより犠牲を強いられている人々の保護と支援を届けることを使命としています。現在、世界の約90カ国で約1万3000人以上の職員が保護・支援活動を展開しています。

一方、日本赤十字社を初めとする各国赤十字社・赤新月社は、その国ごとに組織されるもの。災害救援や保健・医療など、国内の人道支援活動が主な任務です。また、各国の赤十字活動の支援・推進を目的として、世界190カ国の赤十字組織が参加する国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）が組織されています。

各地で相次ぐ地域紛争や大規模な自然災害など、人道危機が世界に拡大する中、ICRCと連盟、各国の赤十字組織の3者による連携・協力がますます重要になっています。

予備的対話が行われた民家に掲げられた赤十字旗

ペルー日本大使公邸人質事件の推移（日時は現地）

月日	赤十字の動き	事件全体の動き
1996年12/17	招待客の一人だったICRCペルー代表部のミニグ首席代表が武装グループに人質保護と解放を訴え、女性・高齢者・病人の250人の解放を実現。ミニグ氏は「公式の仲介者」として政府とMRTAの橋渡し役に	MRTAが武装グループが日本大使公邸を襲撃、招待客のペルー政府要人、各国大使、在住邦人ら約600人を人質に公邸を占拠
12/18	ICRCによる食料・飲料水などと活物資の搬入開始。現場が日本人人質を多数いることを考慮し、日赤が医療班派遣を決定	橋本内閣官房長官がフジモリ大統領との電話会談で、人質の安全保保と要求、MRTAは、服役中の仲間の解放など4項目の要求を提示
12/20	人質と家族とを手紙で結ぶ「赤十字通信」の取り扱いを開始。事件終結までに9500通以上の「通信」のやり取りを実施	
12/22	医師1人、看護師2人、連絡調整員2人から成る日赤チームが成田を出発（日本時間では12月23日）	人質225人が解放。ペルー政府関係者、日系企業幹部らは残される
12/26	事件後初めてのコミ・元物などの搬出に日赤両看護師参画	パレルモ教育相が公邸に入り、MRTAと交渉。人質20人解放
12/28	日赤チームの交代要員として野々尻優美子（高山日赤）看護師が着任	
1997年1/11		パレルモ教育相が事件の平和的解決を目的とする第三者機関として「保証人委員会」を提案
1/12	日赤チームの大和田基子（日赤医療センター）、松本登紀子（高松日赤）看護師が離任	
1/13	ICRCが「保証人委員会」への参加を表明。日赤医療班の鈴木隆雄医師（和歌山日赤）が初めて公邸入り	MRTAが「保証人委員会」を受け入れ
1/15	挑発行為のため公邸内でのICRC活動停止	警備隊が投石などの挑発行為。日本政府が憂慮
1/21	ICRCが公邸前の「作業区域」に中立地帯を示す白線を引く	警察の装甲車がICRCが引いた白線に侵入し、威圧行動
1/23	邦人人質家族がICRC代表部で日赤チームと懇談。現地新聞が赤十字の中立性を記事	ペルー政府がICRCをMRTA寄りと報道
1/24	日赤の野々尻看護師が初の公邸入り。以降ほぼ週1回	1人が解放され、人質は事件発結まで残される72人に
1/25	ICRCが現地紙に「中立」について寄稿	保証人委員会子備折衝で初会合。特殊部隊150人による示威行動にMRTAが発砲し、周囲は緊迫
1/26	日赤の中川香織（本社）連絡調整員が初の公邸入り。以降ほぼ週1回	橋本首相、フジモリ大統領がカナダ・トロントで会談。ペルー政府とMRTAの予備的対話開始で合意
1/27	MRTAが「赤十字通信のやり取りを週1回に制限	鈴木医師が2回目の公邸入り。以降、週1回に
1/28	中田晃（本社）連絡調整員が初の公邸入り。以降局面次第で4回	
2/1		フジモリ大統領が前日のドミニに続き、キューバを訪問し、カストロ国家評議会議長と会談。カストロ議長がMRTAメンバーの受け入れを表明
2/3	ペルー政府とMRTAによる第1回予備的対話が公邸近くの民家で開催	
2/11	日赤の野々尻看護師が初の公邸入り。以降ほぼ週1回	
2/21	ICRCが公邸前の「作業区域」に白線を引く	
3/1	日赤の中川香織（本社）連絡調整員が初の公邸入り。以降ほぼ週1回	
3/3	MRTAが「赤十字通信のやり取りを週1回に制限	
3/6	ICRCの説得で赤十字通信が再び週2回に	
3/10	第10回「予備的対話」妥協点なく、以降個別協議へ移行。翌日、保証人委員会がMRTAと初の個別協議	
3/12	ICRCが現地紙に「中立」について寄稿	
3/16	日赤の主要各紙が赤十字の「中立」を評価する論調の記事を掲載（3月～4月）	
3/18	保証人委員会のシプリアニ大司教がペルー政府とMRTA双方に、合意達成へもっと熱意をと警告	
3/21		
3/24		
4/16	ペルー政府、ICRCのシェレール次席代表を国外退去処分	
4/20	MRTAが医師団の公邸入りを週1回に制限すると通告	
4/21	ICRCフマルガ委員長（当時）、シェレール次席代表の国外退去処分に遺憾を表明	
4/22	ペルー特殊部隊がトンネルから公邸に武力突入。人質71人が救出され、人質1人、特殊部隊員2人が犠牲に。MRTA全メンバー14人も死亡	
4/24	ミニグ代表、記者会見で「残念だが、強行突入の場面では人道的活動の余地はなかなかだ」と発言	

AREA NEWS

ＯＢと現役がタッグ　力を合わせて防災授業の研修会

新潟県

青少年赤十字防災教育プログラムのワークショップも体験しました

青少年赤十字（JRC）加盟校の指導者（教員）OBでつくる新潟県青少年赤十字賛助奉仕団は９月10日、青少年赤十字防災教育プログラムを活用した研修会を現役のJRC指導者とともに開催しました。

新潟県では、県独自の防災教育プログラムがあり、全県の小・中学校を中心に普及が進んでいます。研修会では、JRC加盟校の新潟市立笹口小学校が、県の防災教育プログラムに加え、赤十字の防災教育プログラムを生かした授業を行っていることを発表。参加者は「各学校の取り組みや指導方法の情報交換が進んだ。学校に戻り、児童・生徒に役立てたい」と話していました。

取れたぞ！水上安全法救助員Ｉ資格　ＪＲＣ高校生が奮闘

神奈川県

頸椎（けいつい）損傷者を水上搬送する実技講習

青少年赤十字（JRC）の高校生メンバーを対象にした「水上安全法救助員Ｉ養成講習」が９月中旬の４日間、横浜高等学校のプールで開かれ、県内高校生15人が参加しました。JRCメンバーを対象にした同養成講習は２年ぶり２回目の開催です。

受講者は「将来、学校の先生になる際に役立つと思い受講しました」「得意な水泳を人のために生かしたい」といったメンバーです。水の事故防止、泳ぎの基本と自己保全、安全な救助法、応急手当などを生徒たちは実習し、水上安全法救助員Ｉの資格を取得しました。

迫力の書道パフォーマンス　大学生が献血呼びかけ

徳島県

巨大な筆を使った迫力のパフォーマンスに観客からは大きな拍手が

徳島県の大学生で組織するボランティアが９月24日、献血啓発の取り組みとして書道パフォーマンスを徳島駅前で披露しました。

はかま姿の大学生３人は音楽に合わせ、縦３メートル×横４メートルの紙に「夏は献血へGO！　君に救える命がきっとある」と書き上げた後、「多くの人の命を救うために多くの協力が必要です」と訴えかけました。パフォーマンスを見た高校生は「迫力に驚いた。今度学校に献血バスが来たら協力したい」と話していました。

この日の献血ルームには普段より多い65人が協力。特に20代の献血者が目立ちました

県民の安全意識向上へ　救急法競技大会を開催

山口県

速さと正確さ。両方が求められる競技会

第４回山口県赤十字救急法競技大会が９月11日、周南市内で開催され、中・高・大学生や職域関係チームなど27チーム96人が出場。「命を救いたい」という熱い思いを胸に、日頃から積み重ねてきた救急法技術を競い合いました。

競技はAED（自動体外式除細動器）を用いた救命処置を行う「心肺蘇生の部」と、三角巾で傷を手当てし安全な場所へ運ぶ「応急手当の部」の２部門で実施。総合優勝した「チームおかもと」は救急法基礎講習会の参加者が集まったチームで、昨年に続く２度目の出場。職業も性別もバラバラのメンバーですが、見事なチームワークで栄冠に輝きました。

50人で心肺蘇生にチャレンジ　世界救急法の日イベント

兵庫県

大勢の方に心肺蘇生やAEDを知ってもらう機会となりました

Ｇ７神戸保健大臣会合を記念して９月８～11日に神戸市内で開催された「ひょうごKOBE医療健康フェア」で兵庫県支部は、災害時の救護活動や災害に備えた取り組みをパネルで紹介するコーナーを設置。また来場者に、心肺蘇生とAED（自動体外式除細動器）の使い方を体験してもらいました。

フェア最終日にはワールド・ファースト・エイド・デー（世界救急法の日）の一環として、50人が一斉に心肺蘇生を体験するイベントを初企画。手拍子に合わせて、50人が一斉に心肺蘇生を行う姿は圧巻で、参加者からは「体験できてよかった」「胸骨圧迫は結構大変だった」という感想が聞かれました。

防災月間　関係機関との連携課題に各地で防災訓練

大分県 / 栃木県 / 静岡県 / 兵庫県

９月は防災月間。さまざまな災害を想定した救護・防災訓練が各地で行われ、日赤の各支部もこれらの訓練に参加。関係機関との連携強化などに取り組みました。

大分県支部は、大分空港で９月15日に行われた航空機事故対処総合訓練に、現場指揮所のDMAT統括の立場で参加。着陸時の事故で多数の乗客が負傷したという想定の下、大分DMATなど医療関係８機関と連携しながら、傷病者の治療・搬送などを訓練しました。

栃木県支部は８月28日にさくら市内で行われた「栃木県・さくら市総合防災訓練」に参加。警察や消防、自衛隊などの関連機関との連携を確認するとともに、接骨・整骨災害救護奉仕団や救急法奉仕団などの協力を得ながら救護活動を展開する訓練に取り組みました。

静岡県支部と裾野赤十字病院は９月25日、同院と富士山南東消防本部裾野消防署を会場に合同災害救護訓練を実施。裾野消防署に設置された救護所から中等症の傷病者を同院に後方搬送するなど、連携体制の確認を行いました。

地域奉仕団による防災の取り組みは赤十字ならではの活動です。兵庫県の香美町赤十字奉仕団は９月３日、町内の公共施設を会場に災害救護訓練を行いました。44人の団員が、テント設営や炊き出し、心肺蘇生とAEDの使い方など災害時に必要な対処法や手順を確認しました。

災害時の連携した活動には、日頃からの訓練が不可欠（大分）

日頃の仕事を生かし、骨折の手当をする接骨奉仕団（栃木）

傷病者役の赤十字防災ボランティアなどの皆さんが迫真の演技（静岡）

団員からは「手順を忘れてしまうので、毎年参加するのが大切」などの声（兵庫）

AREA NEWS

つくってくれてありがとう！　ハートラちゃんが施設訪問

栃木県

日本赤十字社公式マスコット・キャラクターの「ハートラちゃん」が９月14日、ハートラちゃんのキーホルダーを作成している「壬生町就労支援施設むつみの森」を訪問しました。

むつみの森は、さまざまな就労作業を通じて障害のある方の社会参加を図る施設。ハートラちゃんのキーホルダー作成は、そうした就労支援事業の一つです。作業者は、アイロンビーズのキーホルダーを一つ一つ手作りで作成。この日は、ハートラちゃんも作業の手伝いをするなど、施設利用者の皆さんと交流しました。

キーホルダーは、11月５日に宇都宮市内で開催される「赤十字まつり」などで配布

２本のポールでいきいきウオーキング　健康増進セミナー開催

北海道

ノルディックウオーキングを活用した健康増進セミナーが９月６日、北海道支部の主催で開かれ、26人が参加。北海道庁旧赤レンガ庁舎の周りをウオーキングし、心と体をリフレッシュしました。

２本のポールを使って歩くノルディックウオーキングは、背筋が伸び、体のゆがみが取れて正しい姿勢で歩けることから、高齢者を中心に広まっています。参加者は、ポールの持ち方やストレッチなどの指導を受けた後、札幌の観光名所をさっそうとウオーキング。「朝のウオーキングで試したい」「膝や腰の悪い人に教えたい」などの感想が出されました。

体を動かすと自然に笑顔と会話も弾みます

学校法人鶴学園を「赤十字サポーター」に初認定

広島県

広島県支部が昨年度から始めた赤十字サポーター認定制度。このほど広島工業大学などを運営する学校法人鶴学園が学校として初めてサポーター登録され、10月３日に認定証贈呈式が行われました。法人としては15社目。

赤十字サポーターは、企業・団体と県支部とが社会貢献に向けた協力関係を深めるための制度。災害救護や救急法講習の普及などの活動資金を継続的に企業・団体から支援いただき、県支部は企業・団体が取り組む社会貢献活動の広報などに協力するものです。鶴学園の鶴衛理事長は「赤十字を良い教材として、学校教育の中で生かしていきたい」と関係強化への抱負を語っています。

鶴学園　鶴理事長（右）と日赤 泉水事務局次長（左）

高校生と奉仕団　世代を超えて炊き出しカレーで交流！

静岡県

青少年赤十字（JRC）加盟校の静清高等学校１年生30人が８月23日、藤枝市赤十字奉仕団の17人と交流。防災授業の一環として包装食袋を使った炊飯とカレーづくり、三角巾を使った応急手当などに挑戦しました。

生徒たちは奉仕団員に教えてもらいながら、包装食袋にカレーの具材と白米をセット。炊き出している時間を利用して、三角巾による応急手当にもチャレンジしましたが、初めて三角巾を使った生徒の多くは悪戦苦闘の様子でした。奉仕団員からは「毎年、こうして交流が持てるのはとても良いこと。自分たちも勉強になる」と相互交流を歓迎する声が聞かれました。

「本当に袋でカレーができるの？」と半信半疑の生徒も、完成後はそのおいしさに納得

奉仕団の揃い踏み　赤十字ボランティア・フェスティバル開催

大阪府

大阪府支部に所属する奉仕団のうち12団と赤十字防災ボランティアが参加した「赤十字ボランティア・フェスティバル」が10月２日、大阪市内で開催されました。奉仕団の存在と活動を広く一般の方にお知らせするのが目的で、企画から運営までほぼすべてを奉仕団が担いました。

看護奉仕団による健康チェックやビューティーケア奉仕団によるホットケア、語学奉仕団による民族衣装の体験など、各奉仕団はそれぞれの特色を表現したブースを展開。来場者からは「様々なボランティアがあることを知った」「自分にも何かできることがあるかもしれない」との声が寄せられました。

虫歯予防のフッ素を来場者の歯に塗布した歯科衛生士会奉仕団の取り組みも好評

常任理事会開催報告

平成28年10月18日、本社において平成28年度第６回の常任理事会が開催されました。

記

１　規則の改正について
（社員制度の見直しに伴う関連規則の改正等及び日本赤十字社職員給与要綱の一部改正）

審議の結果、常任理事会に付議する事項については、原案のとおり議決されました。理事会に付議する事項については、原案のとおり本年11月18日開催の理事会に付議することが了承されました。

また、最近の国際活動実績及び予算の補正にかかる９月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

赤十字支援マーク入りの“人気の味”が 11月1日登場
「家庭画報の紅白えびめん」が期間限定発売

赤十字支援につながる即席めん「家庭画報の紅白えびめん」が、雑誌「家庭画報」の通販事業、家庭画報ショッピングサロンから、来年3月までの期間限定で販売されます。優れた食感の島原手延べそうめんに、駿河湾産の高級桜えびと国産ちりめんじゃこが1袋に凝縮。売上の一部が日赤の活動資金に寄せられます。

詳しくは 家庭画報の紅白えびめん 検索 またはフリーダイヤル**0120-570-557**（家庭画報ショッピングサロン 9:30〜17:30）まで。

お湯を注いで3分、わずか258.8kcalの本格にゅうめんが楽しめます

プレゼント

上記、「家庭画報の紅白えびめん」を６袋セット５名様にプレゼントいたします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

①お名前（匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください）
②郵便番号・ご住所　③電話番号　④年齢
⑤赤十字 NEWS11月号を手にされた場所（例／献血ルーム）
⑥11月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？（いくつでも）
　Ⓐ今月の出会い　Ⓑ地域包括ケア病棟を地域医療構築の起爆剤に
　Ⓒ赤十字原子力災害情報センター　Ⓓ健康豆知識
　Ⓔ海外たすけあいユースボランティアが寸劇　Ⓕ日本手拭いの御下賜
　Ⓖ平成28年熊本地震災害義援金情報　Ⓗペルー日本大使公邸人質事件から20年
　Ⓘエリアニュース　Ⓙ常任理事会報告　Ⓚ赤十字支援マーク入り即席めん
　Ⓛプレゼント　Ⓜフィリピン中部台風復興支援事業
　Ⓝハイチハリケーン被害救援金　Ⓞ人道支援の現場から
⑦赤十字 NEWS のご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice（読者の声）への投稿もお待ちしています。

応募先●　郵　送／〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 広報室
赤十字NEWS11月号プレゼント係
FAX／03-6679-0785
メール／koho@jrc.or.jp
（件名「赤十字NEWS11月号プレゼント係」）

ウェブ上からもアンケートにお答えいただけます
http://questant.jp/q/news_201611

応募締切●　11月28日（月）必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

WORLD NEWS

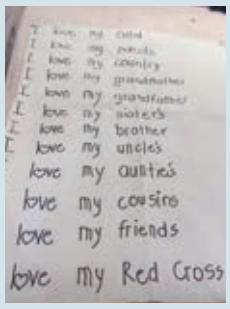
フィリピン中部台風復興支援事業

事業終了に向け、９校96教室の修復・再建が完了

３年前の11月の巨大台風「ハイエン」で大きな被害を受けたフィリピン中部で、日本赤十字社が支援してきた復興支援事業が、今年12月末に終了します。レイテ島で進められてきた９校96教室の修理・再建は今年７月までに完了。新校舎で授業も始まりました。また、セブ島北部の５つの集落を対象にした総合復興支援事業も、より良い街づくりに向けて事業の追い込みに入っています。

2016年７月に完成した小学校にて、児童らと記念撮影

涙ぐむタペルさんに精一杯声をかける李事業管理要員



新しいお家に住みたいという神様への願いが赤十字のおかげで叶った、というジェードちゃん。学校のノートに「I love my Red Cross」の文字が

安全衛生管理などの技術移転も

猛烈な暴風雨と高潮により、多くの人命が犠牲となり、住宅や公共施設などにも壊滅的な被害をもたらした2013年の台風30号。日赤は、フィリピン赤十字社と協力しながら、復興支援事業を３年計画で進めてきました。

学校施設の修復・再建は、暴風と浸水により校舎が使用不能になるなど多くの学校が被害を受けたレイテ島のタクロバン市とその周辺が対象。日本で集められた救援金約２億円を活用し、完全に破壊された20教室を再建、屋根や柱が破損した76教室を修復しました。

日赤は、建築技師の藤井稔さんを派遣し、工事担当企業や作業員への技術指導、学校との交渉調整などにあたりました。藤井さんは「工事が無事故で完了し、生徒・児童が再び学ぶことができるようになりました。安全衛生管理の知識などを作業員たちが次の工事現場で生かしてくれれば嬉しい」と話しています。

仮設の教室などで授業を受けていた生徒たちは、約３年ぶりに教室で授業を再開できるようになりました。

より良い生活を再建するために

観光産業の盛んなセブ島ですが、台風で大きな被害を受けた北部農村部の住民の多くは所得水準が低く、生活基盤も貧弱でした。今回、日赤が取り組んできた総合復興支援事業は、住宅・保健・衛生・防災・生計の５分野にまたがるもの。「台風前の生活を取り戻す」だけではなく、別の災害に将来見舞われた際に、被害を最小限に食い止める力を地域に育てるため、住民ボランティアの参加を得ながら進められているのが特徴です。

すでにセブ島北端のダアンバンタヤン郡では、被災者用住宅のうち日赤が担当する135棟の再建と778棟の修復支援が今年４月にすべて完了しました。台風によって家が全壊したタペルさんは、日赤の住宅再建に対し、「この家で子どもたちと過ごせる今が幸せ。本当にありがとう」と、涙ながらに何度も感謝の言葉を伝えてくれました。また対象５集落では、排水やゴミ処理、汚れた水が原因となる感染症の発生状況などの聞き取り調査が行われ、問題点を地域住民と共有するワークショップを開催。防災地図の作成も進めています。

住みよく、安全な街づくりで地域をいかに魅力的にしていくのか。復興事業は最終局面を迎えています。

ハイチハリケーン被害　救援金受付中

カリブ海で発生したハリケーン「マシュー」が10月４日、ハイチに上陸。南西部を中心に35万人以上が被災し、数百人が亡くなりました。衛生環境悪化によるコレラ流行も懸念されています。

こうした事態を受け、国際赤十字・赤新月社連盟（連盟）は、１年計画の被災地支援を発表。ハイチ赤十字社は、連盟や各国赤十字社の協力を得て、救援物資の配布などに取り組んでいます。日本赤十字社ではハイチ赤十字社の救援活動を支援していくため救援金を受け付け中です。皆さまの温かいご支援をお願いします。

© IFRC

救援金名称　2016 年ハイチハリケーン救援金
受付期間　平成28年12月31日（土）まで
受付方法　①郵便振替（ゆうちょ銀行・郵便局）
※窓口でのお振り込みの場合は振込手数料は免除されます。

口座番号　00110−2−5606／口座加入者名　日本赤十字社

②銀行振込

三井住友銀行	すずらん支店	普通 2787765
三菱東京 UFJ 銀行	やまびこ支店	普通 2105770
みずほ銀行	クヌギ支店	普通 0623382

※口座名義はいずれも「日本赤十字社（ニホンセキジュウジシャ）」
※ご利用の金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります。

③クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easy
詳細は、日赤のホームページ
検索　日本赤十字社　救援金　ハイチハリケーン　をご覧ください。
（本情報は2016年10月25日現在のものです）

小笠原 佑子
Yuko Ogasawara

連盟
ハイチコレラ衛生促進事業（ハイチ）

人道支援の現場から 4

誰かの思いがやがて形になり、人々を笑顔に

透き通った海、青い空、灼熱の太陽、まさにカリブ海！というイメージとは反対に、街は想像を絶する量のゴミであふれ、たくさんの人々が未完成の家やテントで暮らしています。ハイチはまだ、あの2010年に発生した大震災の爪あとが深く残ったままです。

担当する地域は、道路状況が劣悪な山岳地域で行政も訪れない場所が多いため、赤十字は地域密着型で保健ボランティアを育成するところから始めています。日本とは異なり、計画通りにいかない事が珍しくない毎日で、予期せぬ問題もたくさん起こります。成果もすぐにはでないので、とても根気が要ります。しかし、自分たちの地域を立て直したい思いや、炎天下の山道を３～４時間歩いてでも活動に参加するボランティアの情熱に、いつも私の心は揺さぶられます。そして、どんな困難な状況でも「もっと他に改善方法はないか、もっと何かできないのか」と私をいつも奮い立たせてくれるのは、ボランティアや現地住民の笑顔です。

誰かの思いがやがて形になり人々を笑顔にしていく。その誰かというのは、ボランティアをはじめとしたプロジェクトに関わる全ての人であり、地球の裏側に住む日本で寄付をしてくれた誰かでもある。赤十字の活動は、そんなあたたかい思いやりから成り立っていることを改めて実感しています。その思いを1人でも多くの人に、より良い形にして届けることが私の志事（しごと）。ハイチの人々が、健康で笑顔になれる未来が訪れる事を願って、プロジェクトスタッフと共に最後まで走り続けます。（日本赤十字社和歌山医療センターより派遣の看護師）

※本記事の執筆後、小笠原要員はハリケーン「マシュー」の被災地支援に向けた、国際チームの一員として、現地調査や現場との調整などにあたっています。